



小野・玉川野球場付近の向日葵  
(撮影：小林会員)

令和5年9月号 Vol. 233  
(2023年)

発行：令和5年9月5日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス [atugikanvola@yahoo.co.jp](mailto:atugikanvola@yahoo.co.jp)

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

## 《夏季入込観光客調査》

行事区分：行事支援

日時：8月20日(日) 9:00~16:00

場所：厚木市内5拠点

参加者：11名

## 広沢寺温泉（七沢観光協会駐車場）

朝から異様に暑い中、広沢寺温泉に到着。駐車場には車がおりませんでした。写真は9時撮影の広沢寺温泉駐車場で、中央の山が鐘ヶ嶽。暑さが厳しい中をハイキングに来る方は極めて少ない状況でした。9時過ぎに横浜在住の海外のご家族が鐘ヶ嶽登山に来られ、道を案内しました。広沢寺温泉駐車場から鐘ヶ嶽登山口には河鹿の沢バス停で左折しますが、ATSUGI HIKING MAPでは実際と異なる表示がされている為、毎回口頭で説明しています。河鹿の沢バス停の曲がり角に鐘ヶ嶽方面の看板があると良いと思いました。涼を求めて大釜弁財天に行かれた方は「今日は暑いだけ」とおっしゃっていました。川魚の釣りや食事が楽しめるスポットにはお子様連れのご家族が楽しい時間を過ごされていました。



三川合流で入込調査を行なっている会員から大雨になったとの連絡が入り、また一方で厚木の防災無線で熱中症警戒アラートが流れました。夏はハイキングのお客様が少なく、入込調査に参加するあつぎ観ボラも高齢者が多い為、来年以降はもう少し涼しい時期に計画して頂けると助かります。

(山下潔 記)

## 七沢温泉（七扇駐車場）

連日の猛暑、今朝の9時調査スタートも31℃で始まりました。今季の情報として、七沢温泉地区は8月1日に七沢荘がリニューアルオープンし日帰り温泉料金に変更、盛楽苑が七扇 nanaougi と名称変更があり、案内しようと待機しました。



新しい「七扇の案内板」

歩いている人はいませんが、9時から10時は下りの車が日曜日のチェックアウトでしようか多く通りました。やっと9人の若者のグループ。声を掛けるとツリーアドベンチャーへ行くとの事でした。アンケートが取れず残念。



その後、車は通りますが徒歩の観光客は無く、たまに通る徒歩の人は地元の人で、アンケートは断られてしまいます。11時になると厚木の防災無線で熱中症の注意喚起、熱中症警戒アラートが流れました。

今回は猛暑の為歩く人はいませんでしたが、車は通ります。この車が七沢温泉に来た観光客なのか、日向薬師からの林道の通り抜けなのかは聞くことはできずわかりません。これも把握できればと思いました。(菅谷記)

### 七沢森林公園（出会いの広場）

この処の猛暑続きと台風の襲来で、一週間の延期となった今回の入込調査は朝時点では風雨こそ有りませんが、調査開始の朝9時には気温は既に32.2度、10時には35.7度と、うなぎ上りの高温となり今日一日中の酷暑が予想されました。また雲一つない青空で、炎天下の直射日光を避ける為に日除け用パラソルの位置を何度も移動する有り様でした。11時過ぎには気温はついに37.1度と体温を超える暑さとなりましたが、空には少し雲が出て来て、逆に日光の遮りを期待したものです。



さて肝心の人出ですが、通常休祭日ならハイカーたちや虫取りの親子で賑わう処ですが、こうした気象条件で気遣われた通り来場者はほとんどなく、朝9時台は僅か30人で、BBQの団体30人を含めても1日総計が300人程と云う寂しさでした。



少ない来場者の中で、かわいい子犬2匹を連れた若い外国人女性が通られたので、声をかけてみました。3か月ほど前にアメリカのボストン市から来日し、相模原市に住む方で、休日には散歩に適した公園などを巡っているとのことでした。来日目的を訊ねてみましたが「WORK（仕事で）」と答えられ、会社名などは話してくれませんでした。

また、相棒のM会員（樹木や草花に詳しい）はこの季節の七沢の花々として「百日紅、キツネノカミソリ、玉アジサイ、キンセンカ」の写真を撮ってくれました。

猛暑の中、会員から陣中見舞いに“冷え切った清涼飲料水ゼリーとドリンク剤”を差し入れて頂きました。将に“干天の慈雨”元気百倍、アリガトウ。昼前後から他の調査地点から「雨雲が張り出して来た」との情報が入り出しましたが、そのうち「豪雨で中止」との連絡が入りました。当地ではまだ雨の気配も感じられない状況で調査を続行していましたが、指示通り午後2時半ごろに調査を中止しました。



キツネノカミソリ

今回の調査は人出が少なく、地図などのパンフレット類やアンケート数も、私が記憶する限り、当会が厚木市から調査委託を受けて約 20 年間の調査では、恐らく最小の数値ではないかと思われます。  
(山田 記)

### 飯山温泉（中飯山自治会館）

今年は例年にも増して暑い日が多いようですが、この日も例外ではなく、朝 8 時過ぎに家を出る時の気温は、すでに 31 度を上回る暑い日でした。調査中も、強い日差しを避けるため、パラソルの位置を変えたり、日陰へと椅子を移動させながら調査を行いました。

そんな猛暑の影響か、調査場前を通過する車も、バスで来られるお客様もいつもよりずっと少なく、良い季節には沢山目にする、リュック姿のハイキングのお客様も、この日ばかりは全く見かけませんでした。バスで来られたお客様は、1 時間に 1 人か 2 人。アンケートを書いて頂くために、もれなく声をかけると、みなさん目的は同じで、坂東 33 観音めぐりのために飯山観音にいらしたとの事でした。「暑い中ご苦労様です」と挨拶すると、異口同音に「仕事の都合でどうしても今日になってしまいました」と返事をされるのが、この日の暑さを物語っているようでした。

午後になると、三川合流地点での大雨の情報があり、暫くすると飯山でもポツポツと雨粒が落ちてきました。雨自体は大したことはありませんでしたが、その後、熱中症警戒アラートが発令されていることもあり、無理をせず中止するようにとの指示もあり、切りの良い午後 2 時で調査を打ち切りました。

余談ではありますが、今回は、観光案内所や会員から暑さ凌ぎの差し入れもあり、また調査時間も短かったことから何事もなく過ごせましたが、年々厳しさを増す夏の暑さや、高齢者の多い観ボラの現状を鑑みると、観ボラとしても、また依頼主である観光協会にも来年以降は何らかの対策を考えて頂きたいものだと、つくづく思う入込み調査でした。

(根岸 記)



### 相模川三川合流地点（青少年広場）

この日は途中から新人の A さんが加わり、3 人で調査しました。朝会場に着くと上流側の河川敷は既に多くの自動車が駐車しており、部品交換会が開かれていると来場者から教えてもらいました。

9 時調査開始。堤防の斜面は少年野球の応援に来た家族連れで賑わい、プールは 9 時半の開場ですが、既に 10 人ほど待っていて、10 時には活況を呈していました。テニスコートは終日人が絶えませんでした。河川敷はテントが並び、バーベキュー、釣りや川遊びをする人で賑わい、また、車で自転車を運んで来て、ここからサイクリングに出かけるグループなど皆暑さに負けず、休日を楽しんでいるようでした。



ところが、12 時半頃、雨がポツリ、ポツリと降りはじめ、やがて大粒の雨に変わり、パラソルの下で雨を避けたが、パラソルが三人には小さすぎる！雨は豪雨となり、ずぶ濡れです。Y さんが車をとりに行き、車内に避難し調査を継続。多目的広場の堤防沿いに雨水が流れ、川のようなようでした。

雨がやむのを待ち、13 時 10 分に利用者数調査に出動。テニスコートと管理棟、野球場の間は水浸しで、球場整備用のトンボで水を掻き出していました。少年野球の選手たち

がグラウンドの外側の屋根付きのベンチからそれを見守っていました。テニスコートでは既に練習を再開。プールの方は午後は 13 時開場ですが、雨のためか、13 時 13 分に入  
口で 15 人が開場を待っていました。河川敷ではバーベキューを再開していましたが、雨  
の後始末で忙しい時間を避け、頃合いを見計らい、河川敷にアンケート調査に。

「雨は大変でしたね」と話しかけると「びしょ濡れになったので、さっき川に入ってきました」と若人の豪快な答えが返ってきました。この後、指示により 14 時半に入込調査  
を終了しました。教訓。雨が降ってきたら、甘く考えず、大事をとって早めに車に避難し  
ましょう。  
(清田邦男 記)



## 会員投稿

《 厚木の時宗 (1 回目 瑠璃光寺を訪ねて) 》 石川 豊

私があつぎ観光ボランティアガイド協会に入会した時、20 年ほど前に勤務先と一緒にあった友人と再会しました。その友人は上依知の瑠璃光寺の第 64 代住職の服部満明氏です。

以前、協会ニュース令和元年 11 月号「日蓮上人の旧跡を辿る」の中で紹介されていましたが、ご縁を感じ、2 度お会いしお話も聞いて、記事を投稿させて頂くことにしました。



扁額

今回は、瑠璃光寺のご紹介、一遍上人と厚木の接点、温水の専念寺、当

麻山無量光寺、藤沢山遊行寺への訪問と書籍、住職のお話、SNS 等から時宗、一遍上人について感じたことを載せることにしました。調べれば色々な説、見方があり真実は分からないのが感想ですが、上人の信念、伝えたかった生き方が私なりに少しは理解でき大きな収穫でした。

時宗はどちらかと言うと、あまり、知られていない宗派だと思います。鎌倉時代最後の新興宗派で、それ迄、仏教は天皇、貴族、そして一部の特権階級の人々のもので、一般大衆までの救済にはなりませんでした。ところが、時代は移り、武士、他庶民が社会進出するようになり、また、当時は天災、動乱、蒙古襲来の恐怖等世間の不安がかつてなく広がり仏教も大衆の救いに答えられる改革が進められました。

そして、法然、親鸞、日蓮、道元らが出現しました。最後に現れたのが一遍上人でした。特色は「念仏」、「踊り念仏」、「遊行」、「賦算」ですが、次回以降説明致します。



瑠璃光寺の全景

# 1、新編相模国風土記稿による瑠璃光寺の記述と解説

瑠璃光寺は相模原市にある当麻山無量光寺（時宗旧大本山）の13ある旧末寺のひとつ

宗派：時宗（当麻派）	山号：薬王山	院号：生養院	本尊：薬師如来
開山：眞源	開基：依知小太郎		

**薬師堂** 薬師如来を本尊する仏堂の呼称

**薬師如来の詳名** 薬師瑠璃光如来

弘長元年（1261年）一遍上人 23歳。浄土宗西山派の僧である聖達の修行下諸国遊行の途中、秋、相州に来る。

**妙見堂** 妙見菩薩、北極星または北斗七星を神格化し天部のひとつ。「妙見」とは「優れた視力」の意で善悪、真理をよく見通す者。北斗七星にある破軍星が薬師如来と同一視されたことから、如来の化身ともなされた。

**駐錫** 行脚中の僧侶が一時他の寺院や土地に滞在すること

**開山** 眞源上人 真言宗の法師であったと云われている

**開基** 本尊は依知小太郎某の守護佛

**依知小太郎** どういう人物か判然としないが、寺の背後の山に居住していたと思われ、本間氏の郎党越智直重と関係ある人物と言われている



椰（なぎ）の木と葉

**熊野社勸進** 熊野本宮に参拝、大権現より神託を授かり、賦算と他力本願の深意を領解したことにより勸進か？

**椰樹二株** 上人が持ってきた杖を二つに折って置いたところ、根付いて大木となったと言われ人々はこれを一遍上人の法力だと伝えています。椰樹は「椰木」の事で関西以西に自生する亜熱帯性の木で、古くは熊野神社の御神木です。

椰の葉は金剛童子（仏教徒の守護神、阿弥陀如来の化身）変化した姿だとされ参詣者は帰途の安全を願い、椰の葉を護符として袖や笠などに付けました。現在境内にある木は当時からの木ではありません。

\*一遍上人は当地で、河の氾濫で嘆いていた村の人々のために祈っていた。

\*上人が当地に来て、念仏を唱えていた時の薬師堂（草庵）は依知小太郎が村の鬼門除けのために作ったと云われています。

\*上人が持ってきた杖を折って地面に挿して唱えた「近郷化益の功成らば芽を生ずべし」「この地の民、村が栄える事ができれば発芽、栄えよ」という祈願です。

瑠璃寺 時宗。當座郡當麻村。薬王山生養院ト號ス。當寺モトハ薬師ノ小堂ナリ。弘長元年一週三日三夜參籠シテ。コレヨリ當麻ノ妙見堂ニ赴ケリ。故ニ爰ヲ一週最初駐錫ノ地ト唱フト云。後年一寺トナス。開山眞源。應永三十四年。本尊薬師寸長一尺二寸。依智小太郎某ノ山脚上ニ居住セシ。昔寺ハ佛トモ云。ノ守護佛ト云。即小太郎ヲ開基トス。

熊野社 一週ノ勸請ト云。

椰樹二株 一週參籠ノ比。杖ヲ折テ二所ニ挿シ。近郷化益ノ功成ラバ。芽ヲ生スベシト誓ヒシニ。果テ枝葉ヲ生シ。繁茂セシト云。一ハ五尺七尺。

瑠璃光寺の記述

## 2、当麻山縁起（麻山集）による瑠璃光寺の記述

### 当麻山縁起

弘長元年（1261）秋もなかばのこと、一遍上人（当時 23 歳）は諸国遊行の旅の途中、依知の里の草庵（現在の瑠璃光寺、当寺から相模川をはさんで西南方面にある）に一夜の宿をとり、夜もすがら一心に念佛を唱えていました。すると真夜中頃東の空が急に光り輝き、金毛の亀に乗った妙見菩薩が姿を現され、「あなたのおいでになるのを長い間待っていた。この山はあなたに宿縁のある山である。この山で修行すれば念佛の功德は四海に及ぶであろう。ゆめゆめ疑うことなかれ」と告げられ紫雲の中に消えたのです。上人はこのお告げに感激して、相模川を渡り、東北方の大樹の茂る亀方の丘に登るとそこに妙見菩薩の祠があり、「金光院」と名付け修行に励まれました。後に上人の高弟「真教」がここに念仏道場として「当麻山無量光寺」を建立しました。

### 麻山集の存在

一遍については、弟とも実子とも云われる聖戒による《一遍聖絵》が、宗門では正史と認められ有名ですが、「当麻派」の正当性を明らかにしようとした《麻山集》もあります。《麻山集》は当麻山に伝わった伝承などを 35 代当麻山住持、慈眼が正保 2 年（1645）に纏めたもので、さらに、元禄 4 年（1691）38 代他阿是名が改めて編術しています。前述の一遍上人が依知で参籠していたことについて「一遍聖絵」にはなく、このあたりの記録はありません。四祖呑海の遊行寺派が主流になったことにより、重要視されなかった、あるいは必要とされなかったのか、なぜ、空白なのかは全く謎です。

## 3、現本堂のご紹介

**本堂** 平成 10 年完成、現住職、服部満明氏

**ご本尊** 阿弥陀如来像 室町時代作 作者不明  
両手を挙げた珍しい姿勢をとられています

**他** 観世音菩薩像  
閻魔様像

**欄間** 一遍上人の一生が描かれた“聖絵”を基にして彫刻された素晴らしい欄間

## 4、他の史跡

当麻山無量光寺の当時の徳本上人が、近郊各地に「遊行」を行いその箇所、弟子や地元の方が、念仏碑や供養塔を建立しています。現存しているのは、江戸時代の物と思われます。

## 5、日蓮上人と一遍上人のお話

日蓮上人が片瀬龍ノ口で危うく難を逃れましたが、佐渡へ流されるまで、当地依知の本間重連の館（妙伝寺）に滞在していた時、一遍上人が訪ねてきました。その時、一遍上人は「これから寒い佐渡にいかれるのですね、寒さに負けず精進して下さい」と言って差しあげたのが、托鉢でもらった白い布です。日蓮上人の像をよく拝見すると、首にマフラーの様にされています。非常にうれしく、常に離さずお使いになっていたといひます。



日蓮上人

## 6、厚木市内にある時宗の寺院

瑠璃光寺（上依知）、専念寺（温水）の2寺

## 7、一遍上人とゆかりのある一族について



上依知は上人に付き添ってきた人々があり、上人が去った後も住みつきその末裔と思われる人に「白井家」があります。家紋が河野一族と同じ 折敷に三文字「隅切り三」です。

（河野一族とは一遍上人の一族のことです。次回以降説明します）



また、対岸の当麻にも、河野一族の関係者、家臣の一族といわれた「関山家」があり、家紋は「隅切り一」で、「隅切り三」では恐れ多いので三ではなく一にしたとのことです。

今回は一遍上人と時宗について掲載の予定です。

## 最近の活動

日付	場所	内容	参加者
8月 7日	南公民館	創立 20 周年記念誌編集委員会#1	会員 7名
8月 12日	アミューあつぎ	定例会	会員 22名
8月 12日	アミューあつぎ	会員研修（家康尊棺御成道）	会員 20名
8月 20日	市内5拠点	夏季入込観光客調査	会員 11名
8月 21日	相川公民館	創立 20 周年記念誌編集委員会#2	会員 5名
8月 31日	相川公民館	編集会議	会員 3名

### 編集後記

田圃のそばを歩いていると「シオカラトンボ」を見かけるようになってきました。7月、8月と毎日の最高温度が33℃、34℃が連続しました。我が家の「ゴキブリ」も今年はあまり見かけません。暑いので出てこられないのかも知れません。9月、10月と企画ガイド（ハイキング、歴史探訪）が行われます。大勢の参加者申込みがある事を期待します。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘